

2012年度 第5回 農村計画本委員会 議事録

開催日：2013年3月7日（木）

場 所：建築会館

出席者：委員長：岡田知子

幹 事：神吉紀世子、栗原伸治、北澤大佑（文責）

委 員：岩田俊二、大沼正寛、後藤隆太郎、斉尾直子、佐藤栄治、鈴木孝男、中島熙八郎、山崎寿一、山崎義人、

オブザーバー：清水肇、三橋伸夫

I. 確認事項

第4回本委員会（11月14日）の議事録を確認した。

II. 報告事項

1. 学術推進委員会関係

(1) 2013年度予算配分

- ・ 農村計画委員会は、12年度比-0.03%となった。
- ・ 過去2年間の予算消化率を予算配分に勘案し、次年度より1年ずつ追加して最終的には過去5年間分とする。

(2) 竹中育成会検地区研究助成

- ・ 現在募集中（3月29日まで）。

(3) 国際交流振興基金援助事業の廃止について

- ・ 国際委員会設立のため今年度で廃止が決定している。

(4) 2010-2012年度調査研究委員会活動報告会

- ・ 各小委員会の活動を含め報告をする。

(5) 委員会資料のPDF化と事前配信について

- ・ 今回の委員会より経費削減のため紙ベースでの資料配布を止める。
- ・ 次回委員会より、議事次第の配布とパワーポイントでの映写など改善を行う。

(6) 旅費支給時の証憑の提出について

- ・ 13年4月より証憑の提出が決定している。
- ・ 飛行機の場合チケットか搭乗半券、新幹線の場合領収書、チケットレスの場合にはIC発券証明を提出する。

2. 大会関係

(1) AIJ デジタルライブラリー

- ・ 14年より大会研究集会資料を無償公開することが検討され、農村計画委員会では、資料在庫がなくなり次第公開をすることを希望している。

(2) 2013 年度大会（北海道）プログラム作成方針・講演発表時間

- ・ 前年通り 1 題 8 分とする。

3. 本委員会関係

(1) 2013 年度大会農村計画部門研究集会

- ・ 研究協議会（2 日目午後）国土計画小委員会が主催の「自立と循環の国土ー北海道の地域づくりを考えるー」を開催予定。
- ・ 研究懇談会（3 日目午前）集落復興再生小委員会が主催の「漁村と住まいの再建計画手法ー東日本大震災からの復興ー」を開催予定。

(2) 2013 年度日本建築学会技術部門設計競技

- ・ 農村計画委員会が主催で 6 月 7 日締め切り、各委員から関係者へ告知。
- ・ 表彰式を研究懇談会の際に行う（冒頭か最後に行うかは後日検討）。
- ・ 懇談会の後に行う場合は、表彰式の準備を勘案して 2 時間 50 分とし、懇談会の終了時間は厳守する。

Ⅲ. 審議事項

1. 2013 年度大会（北海道）講演要領・司会要領

- ・ 1 題 8 分（発表 5 分、質疑 3 分）として承認する。

2. 委員推薦関係

(1) 論文集委員会委員

- ・ 清水肇君を推薦する。

(2) 技術報告集委員会委員

- ・ 柴田祐君を推薦する。

(3) 災害委員会委員

- ・ 佐藤栄治君を推薦する。

(4) 広報委員

- ・ 北澤大佑君を推薦する。

(5) 2013 年度大会学術講演会プログラム編成委員

- ・ 4 月 24 日（水）に開催。
- ・ 委員構成は以下の各位を推薦する。

委員長：岡田知子君

幹 事：北澤大佑君（神吉紀世子君、栗原伸治君）

委 員：川口友子君、斎尾直子君、齋藤雪彦君、佐藤栄治君、三笠友洋君

3. 本委員会関係

(1) 催し物実施報告

- ・ 集落居住小委員会「むらを住み継ぐカタチ #01：丹波市青垣」について報告された。
- ・ 日韓研究会「環境に優しい安全な建築と地域づくり」について報告された。
→ 次年度（韓国開催）は10月末から11月を目処に韓国側と調整する。

(2) 住宅系研究報告会の運営委員推薦

- ・ 神吉君、中田君については継続、新規委員に瀬沼頼子君を推薦する。

(3) 小委員会活動報告

集落復興再生小委員会

- ・ 2012年大会で研究協議会を開催（新たな漁村のかたち－東日本大震災からの復興－）し研究協議会資料を作成した。
- ・ 三井物産環境基金を活用して調査研究を実施した。
- ・ 「東北大震災津波被災集落緊急報告」を作成した（2011.4）。
- ・ 「東日本大震災合同調査報告書」の集落計画の編纂を行った。2013年中に発行予定である。
→ 震災復興関係の活動をまとめて整理する。
→ 小委員会活動を整理して出版を目指す。
→ 刊行企画書を提出し、理事会の承認を得る（この段階で出版社との調整が進んでいることが望ましい）。

農山村地域組織形成小委員会

- ・ 中越地震復興を行う長岡市小国町をフィールドにまちづくりワークショップなどを開催している。
- ・ さらに、今年度は宮城県丸森町で地域住民とまちづくり検討会を開催した。
- ・ 春季シンポジウムにあわせて先進的な地域組織の全国事例集冊子の発行を予定し、春季シンポジウムの企画を行っている。

農山漁村文化景観小委員会

- ・ 書籍を出版、あわせて研究協議会を開催した（2011.8）。
- ・ 2010年度に和歌山でフィールドスクール（座学＋体験学習）を試験開催。
- ・ 2011年度に兵庫県高砂市でフィールドスクールを開催、2012年度は大阪府泉佐野市にて3/16-17に開催予定。

集落居住小委員会

- ・ 2010年大会で「集落再生のシナリオ（PD）」を開催。
- ・ 2011年度より「むらを住み継ぐカタチ」をテーマに研究会を開催（#01：丹波市青垣）。
- ・ 2013年度も継続的に現地で研究会を開催予定。
- ・ 地域の空き家、空き地などのストックを継続的に使用され続ける仕組みづくりを対象に今後活動を行う。

- 山林などの権利関係をどうクリアするかが次の課題になる。
- 各自治体で検討されている空き家等の強制撤去の制度設計をウォッチしてはどうか、空間性の継承をどのように確保するかも課題である。

国土計画小委員会

- ・ 2010 年度に今後の国土計画制度の検討に資する地域資源管理の先駆的事例、英国空間計画制度改変についての情報収集を行った。
- ・ 2011 年度に都市計画制度総点検の状況についてヒアリング（国交省調整官）、全国市町村単位による地域情報の分析、等質地域を抽出した。
- ・ 2012 年度に東海地区を中心に分析、地方都市での検証し、成果をもとに大会研究懇談会を開催した。
- ・ 3/22 現地調査を予定している。
- ・ 2013 年度から中国地方（農業を支える主要産業がない地域）、北関東から東北地方の兼業農家地帯（工業空洞化の影響が懸念される地域）を対象に検証を行う。
- ・ 研究計画フレームと社会的動向（TPP、道州制議論など）を鑑みた提言などの検討をあわせて行う。
 - 農業を支える「主要産業」をどう捉えるか、マクロの「主要」とマイクロの「主要」は必ずしも合致しない。マクロとマイクロをつなぐことが今後の課題になるのでは。

4. 『東日本大震災合同調査報告書』進捗状況について

- ・ 2013 年 9 月から 10 月には初稿を提出し、2014 年 1 月に委員会内での査読を完了した原稿を提出する予定である。
- ・ 1 分冊 300 頁～500 頁構成で、社会システムが 100 頁を占める。
- ・ 目次に沿ったページ構成、査読の方法を決める必要がある。
 - 被災地全体を俯瞰したリストが必要（全体の見取り図）があった方が良いのでは。いずれにしても集落単位の基準・定義が必要。
 - 4 章の構成を細分化する必要がある。（→13 年度の発行にあわせて無理に書く必要はない、都市計画と同様に 6 年後に発行してもよい）
 - 小さい単位の仮設住宅について建築計画分野と棲み分けて掲載することも検討される。
- ・ 集落復興再生小委員会で構成、執筆者などを改めて協議する。

5. その他

- ・ 今後、小委員会構成の検討を行うので、継続的に議論を進めていく。

以上